

南海トラフ地震臨時情報に関する自治体職員セミナーの実施  
Seminar on Nankai Trough Earthquake Extra Information for Local Government Worker

○矢守克也・杉山高志・黒澤宗一郎  
○Katsuya YAMORI, Takashi SUGIYAMA, Soichiro KUROSAWA

This report details the content and effectiveness of seminars for local government officials focused on the “Nankai Trough Earthquake Extra Information.” A key feature of this seminar is that sessions were held both before and after the actual release of the Extra Information after the 2024 Hyūga-nada Earthquake. By comparing the sessions before and after the seminars, we can verify how the seminar influenced, positively or negatively, local governments' responses to the Extra Information.

### 1. 南海トラフ地震臨時情報とは

本報告は、「南海トラフ地震臨時情報」（以下、臨時情報）をテーマとした自治体職員向けのセミナー（以下、セミナー）の内容と、その効果および課題について報告するものである。2019年に運用が開始された臨時情報の概要については、筆者らが著したものと含めて（杉山・矢守, 2019）、数多くの説明ドキュメントが存在するので、ここでは一切割愛する。また、2024年8月8日に発生した日向灘地震に伴って、臨時情報が史上初めて実際に発表されたことから、発表時およびその後に生じた課題についても、筆者らが報告したもの（杉山・矢守, 2025; 大本・杉山・北原・山下・矢守, 2025）を含め多数存在するので、それらを参照してほしい。

ここで報告するセミナーに特徴があるとすれば、実際に臨時情報が発表される以前に一連のセミナーを開始したため、情報発表以前のセミナー（以下、前セミナー）と、現実の情報発表を経験した後に開催したセミナー（以下、後セミナー）があることである。前セミナーの実施例としては、高知県黒潮町、宮崎県内市町村、および、和歌山県内市町村をそれぞれ対象としたセミナーが存在し、後セミナーの実施例としては、高知県黒潮町、および、高知県幡多地域本部（同地域内の市町村対象）、同県中央西地域本部（同地域内の市町村対象）、同県須崎地域本部（同地域内の市町村対象）をそれぞれ対象としたセミナーが開催された。

以上からわかるように、特に高知県黒潮町については、臨時情報の史上初の発表（2024年8月8日）を挟んで、それを経験する以前の前セミナーと経験以後の後セミナーが存在し、両者を比較す

ることが可能である。すなわち、前セミナーの実施が、同自治体の現実の臨時情報対応に実際にどのような影響を与えたのかどうかについて、後セミナーやそれに付随して実施したインタビュー調査等を通して検証することができる。この非常に稀少なプレポスト検証については、別稿で詳しくレポートする予定なので（黒澤・矢守、投稿中）、本報告では詳細には触れない。

### 2. 日向灘地震以前に実施したセミナー

前セミナーの内容を、2024年1月30日に黒潮町で実施したセミナーを例に紹介しておく。セミナーへの直接の参加者は、同町役場の各部課の管理職15名程度であった。同日午前10時に開始されたセミナーでは、第1に、「臨時情報」に関する基本事項の解説を筆者らが行い、それに続いて、第2に、臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合の仮想（シナリオ）を提示した。その概要は、以下の通りである。

（本日（セミナーの実施日）、午前8時00分に地震発生、震源は静岡県沖でマグニチュード8.3。千葉県・静岡県・愛知県・三重県・伊豆諸島などに大津波警報、神奈川県・和歌山県・徳島県・高知県などに津波警報。午前10時00分に臨時情報（巨大地震警戒）発表。その後、黒潮町には地震・津波など災害による物的・人的な被害が報告されない状況が、上記地震の発生以後一週間継続する。）

第3に、以上の（シナリオ）を前提に、府内の各部署（情報防災課、住民課、健康福祉課、産業推進室、教育委員会など）で実施すべき（逆に実施すべきでない）事項を検討せよとの課題が与え

られた。セミナーに参加している管理職は、それぞれの部署に戻って、各部署内で係長・班長級職員や一般職員を含めて、上記の課題について、実際に2時間程度検討することが求められた（午前11時から午後1時）。検討の結果は、[地震発生直後（午前8時）／臨時情報発表直後（午前10時）／臨時情報発表から数時間後／1日後／1週間後]の5つのタイムゾーンごとのToDoリストとして集約することが求められた（図1は、そのサンプルとして筆者ら提示したもの）。

私は、黒潮町役場の（部署名：\_\_\_\_\_教育委員会\_\_\_\_\_）です

フェーズ	先発地震 発生直後 (平日8:00 a.m.) (津波警報)	臨時情報 (巨大地震警戒) 発表直後 (平日10:00 a.m.)	臨時情報発表 から 数時間後	臨時情報発表 から 1日後	臨時情報発表 から 1週間後
ToDoリスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会の職員の安否確認</li> <li>・学校長との安否確認</li> <li>・学校施設の地震被害の確認</li> <li>・関連する公共施設との情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休校の連絡</li> <li>・保護者への連絡</li> <li>・児童生徒が登校している場合は待機指示</li> <li>・給食の停止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への引き渡し</li> <li>・教職員の帰宅</li> <li>・学校施設の再度点検</li> <li>・避難施設としての開放（行政との連絡）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育のカリキュラムの変更</li> <li>・在宅での教育の開始</li> <li>・避難施設の備品の搬入</li> <li>・公共施設の利用制限の開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難施設の閉鎖</li> <li>・体育館での体育の再開</li> <li>・地震・津波防災のマニュアルの再配布</li> </ul>

図1 ToDoリストのサンプル

次に、午後1時に管理職は再度参集し、各部署で検討した結果を、町長、副町長の前で全員がプレゼンし、それぞれの報告に対して、町長・副町長が全庁・全町的観点からフィードバックし、さらに全員で議論を重ねて、町役場としての臨時情報への対応方針が集約された。

### 3. 日向灘地震以前に実施したセミナー

後セミナーの内容を、黒潮町におけるセミナーと他のセミナーに分けて紹介しておく。黒潮町における「後セミナー」では、上述の「前セミナー」で決定された対応方針と、現実の臨時情報発表時の実際の対応との相互比較を中心に検討された。すなわち、事前のプランニングの成果が生かされた事項とそうでない事項に関する分析が主たる検討課題となった。ただし、「前セミナー」で前提にしたのは「臨時情報（巨大地震警戒）」であり、2024年に発表されたのは「臨時情報（巨大地震注意）」であった。両者に対する対応の差違も考察の対象となった（黒澤・矢守、投稿中）。

その他の「後セミナー」では、まず、日向灘地震に伴って発表された臨時情報について社会的な

課題となった事項について、筆者らから概説を行った。次に、セミナーの参加者が、それぞれの自治体における現実の臨時情報対応（ただし、巨大地震注意に対するもの）について報告し、それらをベースとして、上記の〈シナリオ〉（巨大地震警戒を想定）に対する対応計画を上述の[5つのタイムゾーン]ごとのToDoリストとして作成し、参加者相互に情報交換と討議を実施した。

あわせて、日向灘地震の際に課題となった各種イベント（たとえば、海水浴場や大規模なお祭りなど）の開催の可否や、事前避難の必要性の有無の判断という課題に対応するための手法の一つとして、筆者らが開発した津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」と、それによって得られる大量の避難行動データに基づいて、津波避難戦略を策定するためのシステム「逃げトレView」を紹介した（矢守、2024）。加えて、一部の自治体では、セミナーの前後に、「逃げトレ／逃げトレView」を用いた避難訓練も実施された。

今後も、本セミナーは継続予定であり（2026年は高知県東部地区で開催予定）、引き続き、臨時情報に対する自治体対応に関する知見を蓄積していくつもりである。

### [引用文献]

黒澤宗一郎・矢守克也（投稿中）平常モードと非常モードの両立の観点から見た臨時情報対応—2024年8月の高知県幡多郡黒潮町を例に—  
大本航・杉山高志・北原壯一郎・山下裕亮・矢守克也（2025）令和6年8月8日の日向灘の地震発生後の避難行動と南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）をめぐる対応の分析—宮崎県宮崎市・青島地区における事例調査—自然災害科学, 44, 289-300.

杉山高志・矢守克也（2019）南海トラフ地震の「臨時情報」に対する社会的対応に関する基礎的考察 地区防災計画学会誌, 15, 53-60.

杉山高志・矢守克也（2025）南海トラフ地震臨時情報に関する地区防災計画の分析—令和6年8月8日の日向灘の地震発生後に発表された南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）をめぐる対応— 地区防災計画学会誌 31, 33-47.

矢守克也（2024）津波避難訓練支援アプリ「逃げトレ」矢守（著）避難学—「逃げる」ための人間科学— 東京大学出版会 pp. 123-145.